

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE さいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEE さいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士フィルム㈱大宮事業所 新棟建設	階数	地上5F
建設地	さいたま市北区植竹町1丁目324番	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	680 人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年7月 予定	評価の実施日	2019年6月6日
敷地面積	4,135 m ²	作成者	株式会社大建設計
建築面積	2,221 m ²	確認日	2019年6月6日
延床面積	10,725 m ²	確認者	株式会社大建設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 69%
③上記+②以外の 69%
④上記+ 69%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.7**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 開放性のある執務空間とすることで機能性・更新性を高め、室内環境の向上に努めている。また既存以外に新たに緑地を設けることで良好な景観を形成し、敷地内の暑熱環境を緩和している。 高効率ビル用マルチエアコン、全熱交換器付外気処理空調機、全熱交換器ユニット、潜熱回収型給湯器、LED照明の採用。人感センサー、昼光制御、CO ₂ 制御等きめ細かい省エネルギー手法や環境配慮手法を導入している。		厨房換気に、可変風量システムを採用。
Q1 室内環境 複層ガラス、内装に吸音材を使用することで室内の静寂性に努め、適切な空調・照明計画により快適な執務空間と省エネを両立させた計画としている。照明点滅においてはリモコン細分化を図り将来対応に配慮。	Q2 サービス性能 天井高さ2.8m確保し開放性のある執務空間とし、情報網の多様化を考慮したEPS、幹線ルートの確保、主要な設備機器は屋上及び地上設置とし機器の更新性を高めた計画としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地の23%を緑化。また設備機器を屋上配置とし敷地内歩行者空間の暑熱環境を緩和した。
LR1 エネルギー 断熱性能の高い外壁材を使用、ゾーン毎の空調システムとし暑熱環境をコントロール、全熱交換器による外気負荷の低減、ナイトバージ機能による冷房負荷の削減、更にCO ₂ 制御によって外気量の削減等を行い省エネ及び環境に配慮した計画としている。	LR2 資源・マテリアル グリーン購入法における特定調達品を一部使用している。また節水器具、擬音装置による資源消費の抑制を図り、敷地内全棟の飲料水を井戸水を源水とした専用水道化とし水資源を保護する計画としている。	LR3 敷地外環境 敷地内にゴミ分別回収用の廃棄物置場を設置し、屋上設置の設備機器類の騒音対策として防音壁を設置した。また空調熱源を全電気方式とし燃焼機器の不使用による大気汚染の防止を図っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
富士フイルム㈱大宮事業所 新棟建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		サッシの遮音性能をT-2とする				5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床材にタイルカーペット、天井材に岩綿吸音板を使用				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御						3.6	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		窓システムU=4.07、外壁材U=0.88				4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		ペリメータとインテリアのゾーン毎に室外機系統を分けている				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 昼光利用						1.8	0.30	-	-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.3	0.30	-	-	
1 換気量		居室の換気量30m ³ /h人				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		エリア毎にCO ₂ を監視しVAVで換気量を制御する				5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体を禁煙としている				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.3
1 機能性						2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		各階通信用EPSを設け通信幹線ルートを確認している				5.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		執務室の天井高さを2.8m確保				4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		各階リ執務スペースの3%				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						1.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		巻末の補助資料1の値を基に評価				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出部分と高湿系排気ダクトはステンレス製とする				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水=PEP 排水=DVLP				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		空調・換気は一般室とFV室で系統分けし、固定は耐震措置を施す				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		井水利用、水槽2槽化、受水槽に蛇口設置、節水器具の採用				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		配管耐震支持部材はSA種とする				5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信網の多様化および防災対応が成されている				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.2m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.12	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	配線用専用ラック・ルートを設けている	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配線用専用ラック・ルートを設けている	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	屋上機器はELVで搬出入する	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	空調室外機用の架台にバックアップスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		5地域、[BPI][BPI _m]=0.62	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		ナイトバージ機能あり	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水器具の使用、音姫設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目(磁器質タイル、ビニル系床材)を床面に使用	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		執務室床にOAフロア使用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		積極的な省エネルギー対策	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	室内外にゴミ分別回収スペースを確保	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	